日本GAP山形支部報

ユニバーサルメッセージ

22

ユニバーサルメッセージ　　第22号目次

テレパシックな状態 …… 清水　正 1

スペースプログラムとの一体性
　　－UFO写真展を終えて－ …… 伊藤達夫 2

実生活の中でのテレパシー …… 柴田光明 5

お産を前にして …… 松本三羊子 6

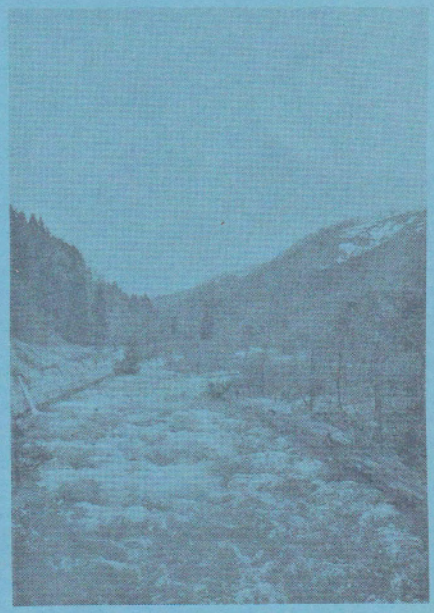
意識からの印象とセンスマインド …… 柴田文子 7

テレパシーについて …… 中根　豊 8

日本GAPに入会して早や一年 …… 加藤寿栄子 9

ロマン残して去ったUFO（山形新聞より） …… 10

お知らせ・編集後記 …… 11



テレパシックな状態

清水　正

もう七年も前の話になりますが、兄が実家に帰省した時でした。いつものように酒を飲み床についた兄は私に、「テレパシーの練習をしよう」といいます。「なんで？」と聞くと「今日は調子がいいから」とのこと、さっそくESPカードを取り出しテレパシーの練習に入りました。

カードを兄の枕元に裏返して並べていきました。兄は床に入ったまま目をつぶっています。

そして、音をたててくれというので、そのようにしました。そうしましたら、五枚並べたカード全部を言い当てていきました。さらに、その並べたカードの方向までも当ててしまいました。

その後、私が別の部屋からESPカードを送信しましたが、それも正解。こんどはカードを伏せたものを上から順に当てていきました。この日はこうした百パーセントの正解で過ぎました。

終りに兄に聞きました。「なんでこんなに当たるんだ」と、すると兄は一言「観念（こんなことはあるはずがないという）がマヒしたからだ」とのことでした。この日兄は酒を飲んで相当酔っていたのです。

テレパシックな時とはどんな状態なのか考えてみました。兄が一時的にテレパシックな状態になったのは、どうやら酒のため肉体細胞がマヒしたためのようで肉体とマインドが密接な関係を持っていることがわかりました。

それでは、酒などによらない日常生活ではどうでしょうか。まず、想念が落ちついた、楽しい拡がりのある、自信に満ちた、そのような状態がテレパシックでした。

それでは、これまでどんな時にそのような落ちついたいい状態になったかといいますと、次のような時でした。

・きれいな心地良い音楽を聞いている。
・やりがいのある仕事を終えた。
・旅行などで日常の生活パターンからはずれる。
・信頼関係で結ばれた友人知人との楽しいひととき。

このような充実感をともない自分を忘れた時にテレパシックな状態を体験しました。

この中で特に想念の拡がりと自信が最もテレパシックな体験についてくるもので、全体と自分が一体となった時なのかもしれません。

逆にテレパシックからは程遠い状態は、想念がこだわり、否定的で小さい暗い心配な状態でした。テレパシックな時の拡がりと自信から見れば反対です。

テレパシックになるための第一が想念にかかわっているようであり、アダムスキー氏の著書に示めされたように、やはり想念の観察を実行しそれを応用する熱心さこそが必要に思います。

スペースブラザーズとの一体性は、そのフィーリングを高めるテレパシックな感知力が必要となりますが、熱心な探求がテレパシックな状態を生み、フィーリングの高まりを見せるものと思います。

今年からテレパシー開発法の解説講義が久保田先生により始まりました。それにともない東京本部月例会でも本格的なテレパシー訓練が始まりました。スペースブラザーズとコンタクトするためにはどうしてもこの宇宙語を知る必要があります。これから各地の月例会でもさかんにテレパシー練習が行なわれ、多くの実績が築き上げられていくことでしょう。

山形支部ではこの機会にテレパシックな人間としての成長を目ざし、テレパシー練習に重点を置きながら想念を高めていきたいと思います。

スペースプログラムとの一体性

＝UFO写真展を終えて＝

伊藤　達夫

この記事は、昨年11月10日に行なわれました日本GAP東京本部月例会における体験講演から、松山支部代表、伊藤達夫氏が松山でのUFO写真展を開催された、その報告です。

伊藤氏には、講演内容を加筆訂正していただき、原稿を送っていただきました。

こうした写真展を開催することは、一般のUFO目撃者やカルマを持つ人々との交流ともなり、以外な発展性を秘めながら「知らせる運動」としてのUFO写真展が社会に与えた波紋は大きなものがあったと思われます。　（編者）

会場の皆様こんにちは。ただ今御紹介いただいた松山支部の伊藤達夫です。今日、この場で講演の機会をお与え下さいました久保田先生と皆様に心から厚く御礼申し上げます。

今日は去る10月7日から16日までの10日間、愛媛県松山市で開催された「アダムスキー全集完結記念UFO写真展」の経過報告をさせていただきたいと思います。

この写真展はアダムスキー全集が完結したのを機会に、ア氏とスペースピープルの偉大な業績をたたえ、その事実を広く一般の関心ある人々に知らせる目的で行なわれました。日本GAPの「知らせる運動」の一環として行なはれたものです。開催に際しては、久保田先生をはじめ東京本部や静岡支部、文久書林、丸三書店の皆様にはひとかたならぬ御援助をいただきました。また、各地で日頃献心的に「知らせる運動」に打ち込んでいる多数の会員の方々から温かい激励と祝福をいただきました。そのおかげで準備もとどこうりなく進み、開催の日を迎えることができました。当初全く未知数だった写真展でしたが、イザフタを開けると予想以上の入場者でにぎわい、盛況裡に10日間の日程を終えることができました。期間中は八百名を優に越える入場者があり、アダムスキー全集も70冊のうち50冊が売れています。また「これがUFOだ」と題するUFO記録映画も大好評でした。

ここで今更申し上げるまでもありませんが、日本GAPは故ジョージアダムスキー氏の遺志を継ぎ、他の惑星の人々から伝えられた宇宙的思想と「宇宙空間の真実」を学ぶかたわら、関心を持つ人々に正しく伝える役割を担っているグループです。久保田先生はアダムスキー氏の遺志を引き継いで今日まで不屈の活動を続けて来られました。ア氏の願いであった「知らせる運動」は氏亡きあと、日本において立派に花を咲かせ、実を結んでいます。この運動に協力する人は誰もがア氏の遺志を継ぐ人であります。宇宙的な向上を図り、スペースピープルとの一体性のフィーリングを個人的な側面のみにとどめないで、その衝動を非個人的な「知らせる運動」という奉仕活動に転換させなければなりません。いったい、この日本に、アダムスキー全集を自腹を切ってまでして購入し、それを学校や図書館等へ寄贈するという奉仕活動をしている人がはたして日本GAPの会員以外にいるでしょうか？　「宇宙空間の真実」が広がることを最も望んでおられるスペースピープル。その願いに直接応えているのが日本GAPだとすれば、その行為だけでも私達の役割がいかに重要であるかがおわかりになると思います。

松山でのUFO展は、こうした会員の役割をふまえて計画・立案されたものです。そのきっかけは、一昨年の十二月の上旬に、今治の海岸で海を見ていた時にフトインスピレーション的に湧いて来たアイデアでした。そのアイデアは内部の意識から湧き出た考えのようでもあり、別なところから送られた想念のようでもありましたが、ただその想念は確固とした信念にあふれた性質のものだったので、す

ぐその場で実行を決意したのでした。

昨年の二月にUコンの店頭到しで松山の丸三書店を訪れた際に初めてこの企画を責任者の方に持ちかけて相談してみました。すると担当の方は二つ辺事で同意して下さったのです。「伊藤さん、それはとてもよい計画です。ぜひ実現させましょう。アダムスキーの体験を多くの人に知ってもらうのはとても大切なことです。書店としても全面的に協力しますよ」と心強い激励をいただきました。こうしてUFO写真展は書店のオープンマインドな決断によって開催が決まったのです。

行事としては次の四項目を考えてみました。

①アダムスキー氏ゆかりの写真パネル展示。これは久保田先生の許可をいただいておもに「宇宙からの訪問者」に収録されている写真を複写拡大し、パネルにしたもので、合計37点を展示しました。

②アダムスキー全集の展示と販売。全集の存在を知ってもらうことが最大の目的なので、文久書林の御協力をいただき、全集10セット・70冊をUコンと一緒に展示コーナーに置いて販売することにしました。

③UFO映画の上映。9分間の短編映画です。若い学生層の入場を予想して学校での視聴覚教育に見合った資料の提供を考えました。

④無料パンフレットの配布。これには久保田先生のあいさつ文、ア氏の経歴、Uコン86号の巻頭言「何が真実か」、金星のシンボルマークの意義、ア全集の紹介、日本GAPの紹介などの記事を盛り込み、14ページ立てにしました。

留意事項としては次のようなことに配慮しました

①ア全集を知ってもらうために、静岡の野口さんが送って下さったポスターを掲示して目立ようにしました。

②日本GAPの企画らしい高次元な雰囲気をかもしだすように配慮しました。これは静岡支部の写真家・筒井徹氏にお願いしてオーソン氏、ア氏、金星のシンボルマークのカラー写真を送っていただいたことで実現しました。

③この太陽系の各惑星に進化した人類が生存していることや、そのいづれも地球を訪れて援助して下さっている事実を知らせるために、具体策として会場にア氏の業績を紹介した年表を掲示しました。

④入場者の理解力に応じて小学生から大人まで誰れにも楽しんでいただけるような会場づくりを行ないました。またどんな質問にも相手の理解力に応じた応答をするように心がけました。

⑤松山は地方都市ながら、市民の教育文化水準が極めて高く、特に丸三書店の来店客は学者や文化人、目の越えた知識人が多いので、そうした有識者の観賞眼にも十分耐えうるように、美しく品性のある会場づくりを心がけました。そのため、年表や先生のあいさつ文、写真パネルの説明文はすべて手書きでなく、太文字の写植印刷にしました。ア氏とオーソン氏、金星のシンボルマーク(A)(B)の各カラー写真はすべて額入とし、また、写真パネルと壁面との間にダークブルーのケント紙を張ることでアクセントを強調し、会場全体にスッキリと引きしまった雰囲気を出すように工夫しました。

次に、この展示会を知ってもらうために次のような広報活動を行ないました。

①展示会の案内とアダムスキー全集の紹介をかねたチラシを三千枚印刷し、それを開催一週間前から書店のカウンターで本を買った人にもれなく渡すようにしました。書店の外交係の人が各学校を訪れて図書室の受付などにチラシを置いて下さいました。

②新聞・放送関係をまわって取材をお願いしました。これは丸三書店の担当の人と一緒にまわりました。訪問先では必ずチラシとアダムスキー全集全巻を見せて趣旨説明を行ないました。その結果、地元の新聞二社と民放ラジオ一局から取材に応じる確約をいただきました。

③書店の店頭に横2m20cmのカンバンを掲げました。また15分おきに店内放送で入場を促すようにしました。この大看板を見て、全体の70%以上の人が入場していることがわかりました。

こうして基本的な骨組のもとに、九月一日から本格的な準備に入りましたが、その間、多くの方々の励ましや、丸三書店の絶大な御協力をいただきながら、いたって楽しく充実した日々を過ごすことができました。

10月6日に開幕してからは、10日間というものはずっと会場につめて、入場者への応対やあいさつ、質問への回答、その間げきをぬっての映画の上映と忙しい日々を送りました。幸いにして地元松山支部の有志の会員が交代で会場を訪れ、お手伝いをして下さったので大いに助かりました。特に高知の野島哲浩氏などはチラシを持って街頭で人々に配布するなど大変な御協力をいただき感激している次第です。

入場者の反応はまさに百人百様で様々な反応がありました。一見、日常の習慣的な想念とかけ離れたように見える問題に直面した時の人それぞれの反応は、その人がこれまでの人生で蓄積した人生観、信条、見方・考え方などが集約されて表現されます。かつて久保田先生は「UFO研究は人間研究である」とおっしゃいましたが、私も入場者の反応に接してみて、本当にその通りだと思いました。入場した途端に「ああ、これはニセモノだ」と嘲笑して出てゆく人。じっくりとたん念に見てゆく人。オーソン肖像画を見て「きれいな女の人だねえ」とため息まじりに見とれる女子高校生グループ。「この人は女性ではなくて男性ですよ」と話すと「えーッ、うそー、ほんとに?」とびっくりした表情をする女性。ア氏の写した円盤写真を見て「どうもはっきり写り過ぎているなあ」と疑問を持つ人。写真には否定的なのに砂漠の足跡やネガフィルムの図型を見て関心を示す人。「デタラメくさい」と言っていたのに私が年表を説明すると「なるほどなあ。何か背後で起こっていたのだろうね」とうなずく人。「この会場には何か違う雰囲気が満ちている。荘厳というか、どう表現してよいのかわからない。不思議な雰囲気だ」といって首をかしげながらじっくり会場全体を眺める人。オーソン氏のカ

ラー写真を見て「イエスにどこか似ているみたい」とつぶやく女性。「地球以外の惑星には人間はいないはずなのに、ここでは人間がいることになっている。この違いをどう説明されるのですか?」と尋ねる学者風の男性。松山で間近かに巨大な母船を目撃した体験を目を輝やかせて語る若いカップル。等々…様々な反応に出会いました。

そこからは一人一人の生活を支えている想念のパターンが浮かび上がってくるのでした。そこからうかがえるのは、UFOや宇宙人問題に対する混乱した知識と誤解です。多分それはゆがめられた情報を一方的に受け入れたことが原因になっているのでしょう。一般の人々はこの問題について断辺的な知識しか持ち合わせておらずになんら正しい手がかりとなる筋道だった考え方をしていないことがわかりました。これらの人々の想念を支配しているものは誤った固定観念であり、自分で考える能力の欠落、無条件でいかがわしい情報の受け入れ、全体を万遍なく観察するというバランス感覚の不足、せつな的で断辺的な思考方法、系統的かつ論理的な考え方の欠如などでした。アダムスキー氏は片寄ったアンバランスな思考の危険性について警告しています。

これに対してバランスのとれた態度で真面目な関心を持つ人も決して少なくありませんでした。不安定な想念状態の人は会場に入ると急ぎ足に関心のあるパネルだけをちょっと立ち止まって眺め、気ぜわしい目で簡単に見渡すとすぐ外へ出て行きます。一方、落ち着いた謙虚な人は、まず先生のあいさつ文にじっくりと目を通し、ア氏の写真を眺めて年表へと順番に移ってゆきます。ゆっくりと説明文に目を通し、疑問点を質問するのでした。映画を見終わるとアダムスキー全集に目を通し、最後にアンケートに記入して出てゆくのです。こうした態度は私達が美術館を訪れて、ある作家の個展を鑑賞する態度と少しも異なるものではありません。その作家をよりよく理解しようとすれば、好ききらいの感情を捨て去って、そこに展示されているすべての資料に目を通す必要があります。そうしなければ本人は、その作家について断辺的で片寄った知識しか身につけることができないでしょう。UFO展も全く同じことです。

バランス感覚にあふれ、建設的な態度を示す人々と心を開いてアダムスキー問題を話し合う機会が度々ありました。その機会に私は、そうした人々に対して、UFO問題を考える際の基本的な態度として①与えられた情報はいったん目を通しておいて性急に結論を出そうとせず、自分なりに考えてみること②色々な角度からとらえると共に内部の洞察力を働かせることの大切さ③心霊的にとらえるとなんら建設的な発想が生まれてこないことなどを語りました。その上で、アダムスキー氏の体験がまきれもなく真実であったこと、他の進化した惑星から来た人々が地球の科学機関などでひそかに働いて地球の進歩を助けている事実を伝えました。関心を示す人に、「宇宙空間の真実」と地球におけるスペースピープルの援助活動の事実を語り啓発に努めました。そして日本GAPがア氏の遺志を継いだグループであり、事実を正しく人々に伝える使命を担っていることを伝えました。

会場には書籍コーナーを設けてアダムスキー全集とUコンの展示と販売を行いました。多くの人は写真パネルとUFO映画に気を取られて、全集まで注意を払いませんでしたが予想に反して、年配の人で関心を示す人が以外に多く、60代の男性が全7巻を買って帰ったり、カトリック教会の修道女が代理をつかわして四冊買い求めるといった例もありました。UFOと聖書の関係に関心を持ったとのことでした。中年の県庁職員が「新聞で見た」と言って会場に来られて全集を全巻目を通し、最後に「この本が最高です」と言って買ったのが「生命の科学」でした。二時間近く会場にいて色々な質問をした後で全集二セットを買った夫婦もあります。特によく売れたのは「宇宙からの訪問者」と「生命の科学」で、「生命の科学」はスペースピープルから伝えられた知識だということが人気の原因だったようです。

期間中、地元の新聞二社の取材があり、そのいずれも新聞に写真入りで掲載されました。二社の記事は大変良心的で、展示会の趣旨を正しく伝えて下さったことを嬉しく思っています。そのほか地元の民放ラジオも二度にわたって会場から女性アナによる実況生中継が行なわれました。

期間中、会場は常に平和で温かい雰囲気に満たされておりました。時たま否定的な人々の嘲笑で空気が乱れることがありましたが、すぐ元の高貴な波動が室内に行き渡ってゆきました。

映画を上映する際にはつとめて「この展示会がアダムスキー全集の完結を記念して開かれたものであることや、地球を訪れてひそかに援助して下さっている他の惑星の方々の偉大な業績をたたえて開かれたものであること」を説明するようにしました。中にはそれを聞いて目を白黒させている人も少なくなかったようです。

こうして10日間にわたる展示会は予想外の好評を得て盛況のうちにその幕を閉じることができました。期間中は全く何

のトラブルも支障もなく、至極平和裡に運営することができましたが、これは松山の穏和で受要的な土地柄が大いに反映していると思います。

今回、「知らせる運動」の応用例として開催したUFO展は、アダムスキー全集の存在を広く一般人に知らしめ、「宇宙空間の真実」を伝える点で一定の成果をおさめることが出来たと思っています。この成功の原因は、多角的かつ立体的な行事を組んだことがあげられます。現在の学校教育はビデオを取り入れた視聴覚教育が一般化しています。そうした教育を受けた若い人々の入場が多いことを見込んだ場合、ただ写真パネルの展示だけでは、ワンパターンになり多様化する要求に応えることができません。そこでパネル以外に全集の展示と販売、映画の上映、質疑応答、無料パンフレットの配布など総合的なプランを立てたことが様々なレベルの人々の要求に答え、成功につながったと考えられます。

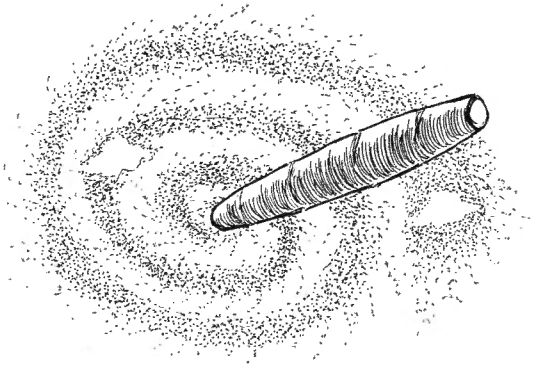
またアンケートによれば、回答者の大部分がこのような展示会の開催を待ち望んでいることなどがわかりました。

今後はこの体験を生かして、いづれ第二回目のUFO展を開きたいと思っています。一般社会にはUFO問題について心霊的、宗教化されてかなりゆがめられた考えが根強く存在しています。この状態をどのように正しい方向に啓発してゆくかが私達に与えられた課題ではないかと思います。その啓発の努力を微力ながら続けてゆきたいと願っている次第です。

この体験を通して私は、スペースプログラムに協力することの喜びがようやくわかってきたような気がします。言葉のみでなく行動で協力できた喜びはひとしおのものがあります。

開催にあたっては、関係者の皆様には大変お世話になりました。改めてお礼申し上げます。また、今回も背後で祝福の想念を送り、御援助下さったスペースピープルの皆様、本当にありがとうございました。

この場でお話し出来る機会をお与え下さいました久保田先生と皆様に再度厚く御礼を申し上げます。ありがとうございました。



実生活の中でのテレパシー

柴田光明

日常生活の中で最近あったテレパシー現象について報告したいと思います。

私の場合、仕事中にリラックスしていて何にも執着せずに指向性を持っている時にうまくテレパシーが働く時があるようです。

生産管理的な仕事ですので毎月、勤務している会社の親会社より電話ファクシミリにて注文書（製造依頼書）が送られて来ますが、その時にある製品の納期と数量を何となく見ていたら「何かその数量か納期かがおかしい！　間違っている！」という印象が強くなって来たのでその親会社へ電話で確認しました。すると、やはり納期がずれていて間違っていました。又、仕事を終えて帰宅し、一時リラックスしていたらどこからか電話がかかってきました。その時は妻が電話に出たので内容はわかりませんでした。ちょうど電話が鳴るか否かの時、私はふと山形支部代表の清水さんから依頼されていた原稿について思い出し「そろそろ原稿を書いて出さないといけないなあ」と思っていました。

後で妻から聞いてびっくり、先程の電話は清水さんからの原稿の催促だったのでした。

これは、きっと清水さんの想念が流れてきてまるで本当の電話？　での会話が伝わったのではないでしょうか。このように「印象は心から心へ働くこと。そして距離は障壁にならないこと。――意気投合して活動している団体には、メンバーの間に一種の波動を確立することができます。――一タイプのエネルギーである想念も何かに利用されるまでは宇宙空間を進行するのです」。

ESP・テレパシー・・・の研究などと言うと○○国ではエセ科学扱いされて残念ですが、古くは大西洋を航行中の原子力潜水艦ノーチラス号と2000キロ離れたアメリカ本土との間でのESP実験からアポロ14号の宇宙船と地球との間でのテレパシー（ESP）実験などがあり、いずれもテレパシーの存在を証明するに成功をおさめたということです。こうした実験が極秘裏に行なわれている為、一般地球人には何も情報が漏らされないわけです。

お産を前にして

松本 三羊子

「妊娠していますネ」。始めて妊娠を告げられたとき、はじめに考えたのは、何処でどのようなお産をしたら良いのだろうということでした。

両親や姉には、初産は大な病院で生むように再三言われていましたため、私は立川では一番大きな相互病院の産婦人科を訪問することにしました。

はじめの受付から先生の診察、検査、それらを終えて廊下に出た私は、何かとても言い知れぬ思いを感じないわけにはいきませんでした。すべてが流れ作業的に事務的にトントンと終わってしまうあっけなさ、私には初めての妊娠経験のため、あれも聞こう、これも聞こうと聞きたいことをいっぱいもっていたのに、聞けたのは、わずかに簡単な2問だけでした。「皆、何処もこうなのだろうか？」私は、これらの雰囲気にとても疑問を持つとともに、再度訪れる気にはなれませんでした。

家に帰り、帰宅した主人に相談いたしますと「それでは良く調べてみよう！」ということになりまして、妊娠・出産に関係する本を五冊ほど購入し、調べてみました。

ちょうどその時期、GAP会員であられます斎藤泰文・津多子さん夫妻を訪問しラマーズ法での出産のお話しをゆっくりお聞きする機会に恵まれましたことも私達には大変ラッキーなことでした。

私達がいろいろ調べてゆくうちに病院でのお産がとても大変な状況であり、妊婦にとって受難の時代ともいえる中にいることもわかってきました。

では、なぜ病院が問題なのか、三つほど書いてみたいと思います。

①病院でのお産は、99％が会陰切開をします。会陰切開をすると必ず正確に筋層をも縫合しておく必要がありますが、中途半端な縫合をして問題になっている地区があるのです。自然の力はとてもすばらしいもので、正常な方のお産ならば切開する必要はさらさらなく、何度もくる子宮収縮の自然の力でゆっくり伸び最後は紙一枚くらいの薄さになって児頭が出てきます。

②は帝王切開の問題です。帝王切開には緊急にしなければならない場合がありますが、現在おこなわれている中の90％が不必要な帝王切開だといいます。

自然分娩と帝王切開の手数はどちらが多くかかると思いますか？　帝王切開の方がはるかに簡単で手間がかからず自然分娩の介添は医師にとっては心身ともに疲れ、そして経験と熟練した技術が必要となります。ところが値段の方は自然分娩より手術の方が十倍も高いのですからとても矛盾しているとしか思えません。これでは、お産の技術を身につけようとする医師がいなくなってしまいます。

病院経営のため、手術を好んでやりたがる医師がふえているのは事実のようです。

③もう一つは、予定日超過の時です。〃予定日〃というのは平均的な目安です。宇宙の意識は確実に私たちの体を生かしてくださっております。実が熟し、それを土に落とすように転生の時期がくれば子宮収縮（陣痛）を初めは柔らかく起こしてくれます。その時期を意識は確実に知っていて自然に生まれ出てくるのです。

しかし、ほとんどの病院では予定日超過はさほど待ってくれません。日赤病院でさえ二週間まで待ちますが、その後は入院、陣痛促進剤の点滴で陣痛をつけ生まされます。

それで、下からお産できれば良いのですが、陣痛微弱におちいり会陰切開、それでもだめなら、吸引器で引っぱりだすか帝王切開と言ったケースも現実としておこなわれているのです。

これはもう自然を無視した行為です。お産はごく自然の行為です。むかしは皆自宅でお産をしていました。

そして、お産は一人一人皆違います。三～四日長いお産の人もいれば、半日ぐらいの時間の人もおります。ゆっくりゆっくりの子宮収縮の中で児頭は下へおりてきて、やがて排臨、その時点でも初産だと一時間くらいかかります。

こうした自然のメカニズムは宇宙の意識のなせるわざ、とてもすばらしいものです。

私は、こうして自然の行為で出てきた赤ちゃんと、その準備がととのっていないままお腹を切られ出された赤ちゃんとではその後に何らかの影響というか、違いが出てきてしまうのではないか……と思えてならないのですが……そのあたりを研究した人はまだいないようです。

この人が転生してくる大切な出発点においてこのような状況には大変驚くとともに、多くの妊婦さんがあまり考えず病院で出産しているのも事実です。

これからは、私たち妊婦さんはじめ、ご主人はお産に関する正確な知識をなるべく多くもつとともに、最終的に〃自然分娩が最高〃という哲学と腕をもった良い医師か助産婦さんにめぐり合えることがどとても大切なのではと思います。

意識からの印象とセンスマインド

柴田文子

先日、こんな事がありました。ある大雪の降る日の通勤途中の事です。会社に行く為の道が二通りありどちらの道を行こうか迷ってしまいました。近道と遠回りの道があり、いつもは近道を通っているのですが、その日に限ってその道は通ってはいけないという印象が内部から湧き起こってきたからです。

しかし時計を見てみるともう迷っている暇などありません。ぼやぼやしていると会社に遅刻してしまいます。そこで私は少しでも早く会社に着きたいと思い内部からの印象を無視し近道を通ったのです。

その道をずーっと行っても別に工事しているわけでもなく、いつもと何の変わりもありませんでした。そんな訳でさっきの内部からの印象は間違っていたのかなと思いながら車のハンドルを握っていました。するとどうでしょう。私のすぐ前を走っていた車が突然スリップして動けなくなってしまったのです。車は道路端の雪の中にボンネット部分をつっ込んだまま斜めに止まり、ちょうど道路をふさぐ形になりました。最悪なことにエンジンも故障してかからなくなってしまったのです。

その為、結局私はその道を再び戻って遠回りの道を行くはめになってしまいました。「近道を通ってはいけない」という内部からの印象は正しかったのです。

私達万人の内部に存在する宇宙の意識は常にいかなる場合においても私達をより良い方向へ導こうとしています。私達はただマインドを謙虚にし意識からの印象に耳を傾け、ただその印象に従うだけで全ての物事が最も良い方向に行くのだと思います。

この内部からの宇宙の意識に従う事はアダムスキー哲学を生活の中で活かす為の第一歩であり、最も重要な事だと思います。私達は物事を決める時、意識的な直感力よりも、習慣的なマイドによる推測で判断、決定をしています。たとえ意識からの印象が来たとしてもマインドがそんなことはありえないと習慣的、常識的な考えで打ち消してしまいます。

内部の意識からの印象に従うということは初めは容易なことではないかもしれません。意識に対する百パーセントの絶対的な確信、信用がなければできないでしょう。でも私達はしなければならないと思うのです。真に宇宙的に生きようと思うならば。

意識とは一体なのでしょう。そしてマインドとは。今さら述べるまでもありませんが、意識は万物の創造主である生命力であり、マインドは各感覚器官で成り立っていて、常に学習を続けながら創造されてゆく過程にあると生命の科学に述べてあります。

私達が進歩するということは、結局意識によってマインドを訓練し高めることだと思います。ですから人間の本当の成長はマインドの成長そのものだとも言えるのではないでしょうか。他の高度に進化した惑星から来られるスペースブラザーズの方々の感覚器官の心は宇宙の因の心と等しいまでに高められているとのことです。

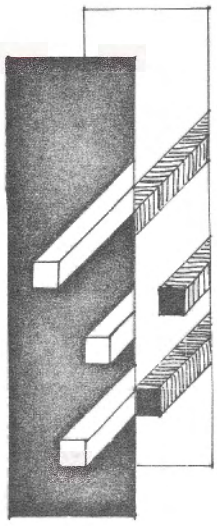
そのように考えてみると自分の内部の宇宙の意識にマインドを従わせることの重要性がわかってきます。

内部の印象を正しく感受する為には、常にマインドをコントロールしておく必要があると思います。それは想念観察にも通じると思います。自分の想念を観察し抑制してそれをいつも宇宙的な状態に保っていること――意識からの印象を感受する上で最も大切なことだと思います。

意識による生活…内部からの印象に従い、それをあらゆる物事に応用すること、それを今年の私の大きな目標にしてがんばって行きたいと思います。

テレパシーについて

中根　豊



オーラ透視、過去世透視、遠隔透視、未来予知、念力…これらいわゆるテレパシー能力を持つ人々を私たちは〃特殊〃な人々と見ていないでしょうか。〃普通〃の私たちから見て〃特殊〃と。

しかし、テレパシーは「テレパシーはあらゆる生きものに本来そなわっている自然の能力であって、これにより自分のフィーリングを他のすべての生きものに伝えることができます」。

ということは、テレパシー能力がある人が〃普通〃なのです。そしてそれがない私たちの方が〃特殊〃、というよりも〃異状〃なのです。犬も猫も鳥も、花や木もみんなテレパシー能力を持っています。そして当然のことながら、同じ創造主によって創造された私たち人間もそれを持っています。しかし実際にはそれを使用することができずにいます。地球の混乱した状態の中で、そして否定的な環境の中で、生まれながらのその能力は発揮する場を失い、次第に発現が難しくなってしまったのです。

最近、日本でもテレパシーの研究が盛んになり、アルファ波の悩波が出ているときにテレパシックな感覚や能力が発現するということが知られています。また私たちはアダムスキー氏の著書から〃宇宙の意識と心の一体化〃によってそのようなテレパシー能力が発現することを知っています。なのにそれが発現していないということは、私たちはその一体化ができていないということになります。私たちの心は一体化どころか、コントロールもされず、好き勝手にエゴを振りまいているということです。未だにエゴに支配された精神労働者なのです。

宇宙の意識と心の一体化は、「一体化できた！」というような気分的な性質のものではありません。それは実際の精神的肉体的変化です。その変化の現われのひとつとしてテレパシー能力が発現するわけです。そしてそのときはじめて万物が一体であることや、生命が永遠であること、自分の正体とその目的、そして創造主を認識できるのです。

しかし、この体験を得るのは容易ではありません。なぜなら、せっかく発現したこのような能力、人間本来の状態はエゴを抱くことによってその段階で停滞するか、ほとんどの場合は低下していきます。それだけにこの人間本来の状態を持続させるためには、エゴに支配されないよう常に自分の心をチェックするという不断の努力を要します。

この真自我を知る方法、あらゆる生命体の間で行なわれているコミュニケーションを理解する方法は、ご承知のようにアダムスキー氏の「生命の科学」、「テレパシー開発法」に実に詳細に説明されています。読んでそれを実践するならば、私たちは確実にそれを得るでしょう。

車を運転される方なら、次のたとえが理解できると思います。私たちは交通法規や運転教本を読んだからといって、そのまま車に乗り込んで公道を走ることができるでしょうか。もちろんできません。しかし現在の私たちの状態は本を読んで勉強したから運転できる、あるいはいつか運転できるようになる、と思い込んでいます。私たちは、その公道法規や運転教本の内容を実際に乗車して応用、実践しなければなりません。もちろん最初は思うようにいきません。これでいいんだろうか、本当に自分は運転できるんだろうか、と不安や挫折感が起こります。しかし絶ゆまぬ努力の末、私たちはいつしか自由に快適なドライブを楽しむことができるようになります。そうして初めて、他の人々にもその運転方法を、その素晴らしさを教えることができます。

宇宙の意識と心の一体化や、テレパシー能力の習得も全くそれと同じことです。アダムスキー氏の著書は、交通法規や運転教本のようなものです。私たちの深遠なる研究も、自動車学校の生徒のように謙虚で忍耐強い態度で臨まなければいけません。

「あなたがいかに多くの書物を読もうとも、いかに多くの宗教を遍歴しようとも、いかに多くの講座や教師につこうとも、放とう息子がやったようにやらなければ、これらは何にもなりませんし、真理をもたらしません。自我のプライドを死滅させて、謙虚さと意識の意志の中に生まれかわりなさい！」

日本GAPに入会して早や一年

加藤　寿栄子

私が宇宙哲学に魅力を感じて会に入会してから丁度、一年になります。

初めは、宇宙哲学の本や支部報などを読み、会の方達の考えや、そして宇宙哲学の根本的内要をつかもうとするだけで、せいいっぱいで、UFO観測や実践までは仲々いきませんでした。

それで、一時期あせった事もあったのですが、確実にマイペースでいこうと思い直しまして、一つ一つ自分なりに、自分の階段を登ることに致しました。

まずは、自分を高める事から始めなければならないと思い、学べる事はどんな事からでも吸収したい。そして、どんな些細な事でも内部の印象がわき起こったらそれに従うように努めようと思いました。初めは、内部の印象がふっとわき起こる事があっても、何故そういう印象が起こるのか考えている間に、〃いいや大丈夫でしょう〃。などと打ち消してしまって、やりすごしてしまう事が多く、後で後悔することもありました。最近は、それも少くなったように思います。

先日、会社の上司より、なる程と思う話を聞きましたので紹介させていただきたいと思います。

現在の私の仕事は、一台のテレビを前面で電機的検査を一人がやり、そして私が内部検査を裏面でやって居ります。この検査工程を製品検査といい、ここをぬけると梱包され市場に出されるわけですが、その中の数台が抜き取られ、私達の見のがしがないかチェックする抜き取り検査というのが後にひかえて居ります。

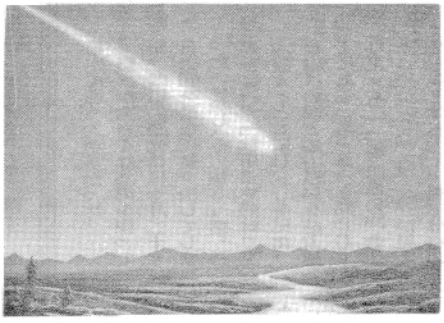
その抜き取り検査員は各列事に一人か二人いて、一日に何台か抜き取るのですが、検査員によって不良の出る列は毎日のように出るし、出ない列はほとんど出ないというのです。その毎日不良を抜き取る抜き取り検査員が抜き取った製品は、どの列で抜き取っても不良を見つけるというので、他の抜き取り検査員の見のがしではないかという事になり、他の抜き取り検査員の抜き取った製品を検査させて見た。すると、やはり不良はなく良品であったというのである。

そこに同じ系列の業者の人が来て、それは、仕事を始める前の検査員の心構えの時点で、やる気のある者は絶対不良をここで押さえてやるという意気込みが不良製品を呼びよせ、確実に抜き取る事が出来るのだという事を話してくれたそうです。その日一日を無事になんとなく過ごせばいいと思いながら、不良が出れば残業もしなくてはならないし、不良が出なければいいなあ。などと思いながらしてる者には絶対不良などをはぶけるはずがない。抜き取る時点で不良製品が流れてきても、その製品をつかむ事が出来ず、良品の製品を抜き取ってしまうのだそうです。

人間の想念が機械にも通じるという事は絶対あるのです。しかし、私自身この話を聞いて、〃ギクッ〃と致しました。なぜなら、製品検査員でありながら、目視なのだから、人間なのだから全てを見る事は出来ないし、機械とは違うのだから少々の判断の誤りはあるのだと、自分の仕事に対しどこかにあまい考えがあったからです。

これではいけないと思い、次の日からまず仕事を始める前に、治具やセットを見回し、今日一日の自分の意気込みを伝え、仕事を始める事に致しました。不思議と今では、見えなかった不良が出たり、何と一日が早く思えた事か。そうなのです。私自身、今まで頭の中だけで宇宙哲学を理解しようとして、身近に実践出来るという事を忘れていたのです。以前、不良が一目で見えるメガネがあるといいだろうなあ。などと言って、仕事のパートナーと笑った事がありましたが、人間はそのメガネに変わるものをもうずっと以全から持ってるのですから、それを使わなくてはと思います。

自分しだいで、どのようにでも自分の道をきり開いていける宇宙哲学に増々魅力を感じつつ、二年目も又、一つ一つ力をつけていきたいと思います。



昭和59年(1984年)12月20日　(木曜日)

ロマン残して去ったUFO

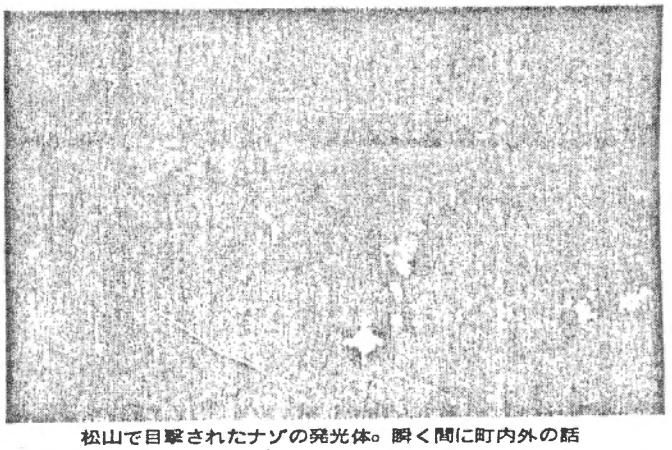
話題の'84カレンダー ⑦

遊佐町の海岸に二度にわたって鯨の死体と思われるものが打ち上げられたり、吹浦沖の定置網に暖かい海に住むはずのマンボウがかかったりと、不思議な出来事が多かったことしの庄内だが、何といっても極め付けは松山町のUFO騒動だった。

一段落した後も問い合わせや"それらしきものを見た"という話が舞い込み、余韻は今も続いている。

UFOを見た―という話は日本中、世界中にある。県内でも尾花沢市の銀山温泉での目撃談が紙面をにぎわせたのは記憶に新しい。松山の場合は、発光体が十月中旬から半月もの間、連続して複数の町民が目撃したことが、特異なケースだった。

目撃されたナゾの発光体をUFO(未確認飛行物体)と呼ぶことには「見えたのは光であって"物体"ではない」と反論する声もあったが、いずれにしても、この騒ぎが広まるのは速かった。十月二十四日までは、内町周辺の町民らが毎晩見ていたにすぎなかったが、二十五日付朝刊で本紙が報道すると、その日のうちに町役場には問い合わせの電話が殺到した。自ら調査に乗り出し、"UFOの係長"とアダ名を付けられた役場総務課の加藤栄一企画係長は「朝から夕方まで引っ切りなしで、全く仕事にならなかった」と苦笑。町で調べたところ、この発光体の目撃者はさらに増え、町内の児童、帰宅途中の勤労者らも同じような光を見ていることが分かった。こうなると「ぜひとの目で見てみたい」と思うのが人情というもの。町内だけでなく酒田市や隣接各町からも「子供にせがまれて……」と毎夜、松山に通う人が多かった。



松山で目撃されたナゾの発光体。瞬く間に町内外の話題をさらった

なぞの光に松山通い

今でも"見た"と余震続く

騒ぎが大きくなるのを嫌ってか、問題の発光体は十月二十七日未明を最後に姿を消してしまった。しかし、その後も"話"は尽きない。「秋田県象潟町で友人数人とともにUFOを見た。松山は象潟と銀山温泉を結ぶ線上にあるから、きっと同じUFOだろう」「酒田港の沖合に赤い光が落ちて行くのが見えた」などなど……。酒田港沖の赤い光については、通報を受けた酒田署が警備艇はくろを出動させて調べたが、手掛かりは得られなかった。

ようやく落ち着きを取り戻した最近の町内では「松山スキー場をUFOがらみで売り出しては……」といった声もあるほど。加藤係長は「どういうものは正体がはっきりしない方が夢も残って、かえって良いのでは……。でもできれば観光効果も考えて、来年のお盆ぐらいにもう一度出てくれればいいんだが」とムシのいい期待をしているが、果たして来年はどうなるだろうか。

◇お知らせ◇

伊藤睦史君送別会
―ご案内―

山形大学理学部を今年卒業されて、はれて社会人となります伊藤睦史君は、これまで山形大学入学と共に山形支部月例会や、その他のGAPの催しに参加され、その宇宙哲学の理解はハイレベルに達し科学的見解と相まってこれまで山形支部に大きな刺激と貢献をしてきました。

なんと言っても、山形支部月例会が毎月行なえたのも伊藤君がその会場をかかさず確保して下さったからです。

四年間本当にありがとうございました。

これからは、アメリカ系のコンピューター会社に入社され、茨城県の方に住まわれることになりました。こんどは茨城支部の方でGAP活動をされることになりました。

茨城支部の皆様よろしくお願いいたします。伊藤君はきっと素晴らしい活躍をされると思います。

さて、来たる三月三日の山形支部月例会は伊藤君が山形に住まれて最後の月例会となりました。そこで送別会を別会場で行ないたいと思います。ぜひ御参加下さい。

会場　さかいや（山形駅前北通り）
時間　午後五時～七時半
会費　三千五百円

有意義だった移動月例会

昨年11月3日、山形支部としては初のこころみである移動月例会を温泉地天童市のホテルあづま荘で行ないました。

おもなプログラムは、いつもの月例会の内容に加えて、UFO観測会と意見発表会、柴田さん御夫妻によりますエルサレムスライド上映などを行ないました。

このたびの移動月例会は熱心な話し合いで深夜まで及び、その内容から研修会的色彩が強くあったと思います。

これからこうした移動月例会を機会があれば行ないますので、支部会員の皆さんよろしくお願いいたします。

山形・仙台合同支部大会

今年は山形県米沢市で山形・仙台合同支部大会を十月二十日に行なうことが決定しています。くわしいプログラムは次号の支部報に掲載いたしますが、素晴らしい内容になるよう支部メンバーが結束してとり組んでおります。御期待下さい。

山形支部月例研究会

今年からは特にテレパシー開発に力をおきますが、楽しいなごやかな雰囲気の中でやっていきます。

毎月第一日曜日午後一時～五時
会場　山形福祉文化センター

プログラム
東京月例会における久保田先生の講義
「テレパシー開発法」解説テープ公開
近況報告、テレパシー練習、研究発表
座談会、他

「テレパシー開発法」文久書林を持参下さい。

※四月の月例会場は未定です。

編集後記

★伊藤達夫氏から原稿を送っていただいた松山市でのUFO写真展は、そのきめこまかな心使いと周到な準備のもと行なわれたことがわかっていただけたことと思います。素晴らしい協力者と会場があったことも見逃せません。こうしたことは偶然におとずれるものではなく、写真展を行なう人の人望、熱意など多くの要素がこの結果を与えるものと思いました。

このたび写真展が大成功であったのもスペースプログラムの正当性として当然かもしれませんが、これからのGAP活動の一つの示唆となった観があります。

★こちらは松山でも山形の松山町での話題です。

山形県内ではこれまでも各地でUFOの出現事件がありました。特に「おしんブーム」に合わせたような銀山温泉でのUFOの連続出現が有名です。昨年は庄内地方松山町で約一ケ月続けて出現しつづけテレビなどでもその話題が放送されています。

こう見ていますと、けっこう山形県はUFOの出現地と言えるのかもしれません。

★昨年行なわれた移動月例会は大変有意義なものでした。UFO観測会は市の高台にあります舞鶴公園で行ないました。近くには山形空港があるため、たびたび飛行機が低空で通って行ったり、この日は天候にめぐまれ、美しい星空や流星が見られました。

意見発表会は支部会員一人一人が原稿に意見をまとめて発表し、それを話し合うものです。

★GAP活動が以前よりもより具体的なものになって来たように思います。Uコンの直販やアダムスキー全集の献本活動、UFO写真展も各地で行なわれようとじています。そして、GAP会員各自がテレパシックになるための実践が今年から東京月例会を中心に「テレパシー開発法」をテキストとしながら行なわれるようになりました。

将来GAPがはたす役割は重要になってくることでしょう。そのための準備をしっかりしておかなければなりません。励ましあって活動していきましょう。

日本GAP山形支部報
ユニバーサルメッセージ22号
編集発行人　清水　正
発行所　日本GAP山形支部
〒992山形県米沢市中田町901－2
県営中田アパート141
☎0238（37）5635
1985年2月25日発行　送料170